

日本NGO連携無償資金協力申請書

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	本事業は、ゴクウェ・ノース地区のより多くの住民が安全な水及び衛生環境で生活できるようになることを目的とする。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(ア) ジンバブエにおける水・衛生分野の開発ニーズ</p> <p>2000年代前半からつづいた政治的混乱、さらに2000年代後半から激しさを増した経済的混迷の影響を受けて、ジンバブエ政府は適切な開発政策の策定とその施行を十分に行なえておらず、多くの人々が厳しい生活環境のもとにある。ジンバブエは様々な開発課題を抱えているが、特に、水・衛生分野への取り組みが必要となっている。</p> <p>同国では、多くの人々が未だ安全な水及び衛生設備を利用できていない。現在、ジンバブエは2015年までに「MDGsゴール7: 環境の持続可能性の確保」を達成できないとみられている。具体的には、安全な水を利用出来ていない人の数は、都市部では1%となっているが、一方、農村地域では33%である。<sup>1</sup>また、トイレを利用して排泄している人の数は、都市部では99%であるが、農村地域では50%前後となっている。<sup>2</sup>このように、農村地域での水・衛生分野への支援が不可欠となっている。</p> <p>(イ) ゴクウェ・ノース地区における水・衛生分野の開発ニーズ</p> <p>ゴクウェ・ノース地区は、人口24.5万人、全36区からなる行政区画である。<sup>3</sup>サバンナ地帯に位置し、その殆どを農村地域が占めている。主な産業は綿花の栽培であり、多くの住民がこれに従事している。近年、他の地域から綿花の栽培を行なうために、ゴクウェ・ノース地区へ移り住む人が増えており、人口は増加傾向にある。その中で、水・衛生や教育関連のインフラ整備が大きな課題となっている。</p> <p>ADRA Japanは、2010年11月から2011年12月にかけて、外務省NGO連携無償資金協力の助成を受けて、同地区において水・衛生分野への支援を行なった。(事業名:「コレラ感染症予防のための水衛生改善事業」:以下、「前事業」とする。)前事業によって、対象となった学校やコミュニティでは水・衛生環境が改善されたが、支援を受けなかったところでは未だに安全な水にアクセスできない、トイレ等の衛生設備がないなどの課題を抱えている。特に、サテライト・スクール<sup>4</sup>と呼ばれる設立されて間もない学校の水・衛生設備をはじめとした学校施</p>

<sup>1</sup> UN OCHA Zimbabwe, “WASH Priorities - Snapshots”, December 8<sup>th</sup>, 2011

<sup>2</sup> UN OCHA Zimbabwe, “WASH Priorities - Snapshots”, December 8<sup>th</sup>, 2011

<sup>3</sup> Central Statistical Office (CSO), “2002 Census”, 2002

<sup>4</sup> サテライト・スクールとは、学区内の生徒数が増加し、または学区があまりにも広く通学が難しいとされたために設立された学校のことを指す。ジンバブエのサテライト・スクールは、1つの学校として独立して運営されており、他の学校と運営面、組織面で異なる点はない。しかし、学校施設・設備が未整備であるために、サテライト・スクールとされている。

	<p>設・設備の整備は殆ど行なわれていない。各校の教員も生徒の保護者からも学校施設・設備の整備を試みているが、資金や人的資源が非常に不足しているために実施に至っていない。そのため、外部へ支援を求めている。</p> <p>本事業は、ゴクウェ・ノース地区の8区、9区、33区及び34区において支援を行なう。なお、以上の4つの区は、現地行政との協議のうえでADRAが、ニーズが高いと判断し、担当する地域となったものである。各区の状況は別紙1の通りである。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</p> <p>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設</p> <p>※5校で各校2校舎を建設する。</p> <p>第1期：校舎建設（3校・計6校舎）  第2期：校舎建設（2校・計4校舎）、貯水タンク（3校・計5基）  第3期：貯水タンク（2校・計2基）</p> <p>学校において安全な水を確保するために、貯水タンクの設置を行なう。貯水タンクはコンクリート製で、1基あたり30,000リットルの容量を有しており、2校で各2基、3校で各1基設置する。<sup>5</sup>また、学校に貯水タンクを設置するにあたり、雨水の集水機能を高く持つ大きな屋根を設置した校舎建設もあわせて行なう。なぜなら、対象校では、木や土などで作られた仮小屋や木の下などで授業が行なわれており、頑丈な校舎がないためである。貯水タンクは、雨どいを頑丈な建物に張り巡らせることによって、そこから十分な雨水を集めることができる。学校においては、校舎が雨どいを張り巡らせるのに最も適切な建物となる。</p> <p>校舎を整備することによって、教育環境の改善も行なうことができる。現在は、仮小屋や木の下などで授業を行なっているため、毎年約3ヶ月つづく雨季の長雨や洪水などによって、授業を行えない期間が長く続くことがある。これによって、生徒らの学習する機会が奪われている。校舎を建設することによって、学校は乾季や雨季に関わらず、一年を通して授業を行なうことができる。</p> <p>※なお、安全な水源を確保するために貯水タンクの設置という方法を選択した理由に関しては、別紙2を参照。</p> <p>※なお、本事業は教育現場での水・衛生環境の改善を目的としているため、ゴクウェ・ノース地区における教育分野への開発ニーズを別紙に記載した。詳しくは、別紙3を参照。</p> <p>B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕</p>

<sup>5</sup> 本事業によって、各校は雨季のピーク時にそれぞれ、30,000リットル、または60,000リットルの水を確保することが出来る。しかし、雨季の終わりには降雨量も減少するため、貯水タンク内の水量も減少する。すでに貯水タンクを設置している学校への聞き取りによると、雨季の終了後約1ヶ月は教員・生徒数分の水を確保できているとのことである。（教員・生徒数の違いによって多少の違いはある。）

	<p>※4つの区で、計20基を新設し、計11基を修繕する。  第1期：10基設置、11基修繕  第3期：10基設置</p> <p>浅井戸の設置は、コミュニティに住むより多くの住民が安全な水にアクセスできるようになることを目的として行なう。井戸の設置はコミュニティから推薦された地域住民が行なう。</p> <p>(イ) 衛生環境の改善</p> <p>A. 学校におけるトイレ建設  第3期：10棟（5校に各2棟建設）</p> <p>学校において全2棟（男子1棟：5室、女子1棟：5室）のトイレを設置する。</p> <p>B. 学校における手洗い場の設置  第2期：5基（5校に各1基設置）</p> <p>学校に1基の手洗い場を設置する。この手洗い場は、コンクリート製のタンクに蛇口をつけたものである。</p> <p>C. 参加型保健及び衛生に関する教育、及びその既習者コースの実施  ※6校と4つの区で実施する。  第1～2期：参加型保健及び衛生に関する教育  第2～3期：既習者コース</p> <p>住民が水・衛生に関する知識を持ち、かつ水・衛生設備を適切に使用できるようになるために、「参加型保健及び衛生に関する教育」及びその既習者向けコースを実施する。</p> <p>※各事業コンポーネントの対象地及び数量の詳細に関しては、別紙4を参照。</p>
(4) 持続発展性	<p>ハードのコンポーネントに関しては、現地行政と連携して学校やコミュニティにおいて維持・管理の研修を行ない、裨益者らが主体的に施設・設備の維持・管理を行なえるようにする。また、ソフトのコンポーネントについては、コミュニティ及び学校において裨益者主導の活動を行なうことによって、それが継続していく体制を事業の実施過程で構築する。なお、ADRA Japanはハード及びソフトに関わらず、現地で活動を行なうADRA Zimbabweと連携して、モニタリングを行なう。</p>

<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>(ア) 安全な水へのアクセスの向上</p> <p>A. 学校における貯水タンク及び校舎の建設  (見込まれる裨益者数) 約 1,470 人+今後入学する生徒 (全 5 校)</p> <p>第 1 期: 校舎建設 (3 校・計 6 校舎: 約 1,205 人)  第 2 期: 校舎建設 (2 校・計 4 校舎: 約 265 人)、貯水タンク (3 校・計 5 基: 約 1,205 人)  第 3 期: 貯水タンク (2 校・計 2 基: 約 265 人)  (指標)・雨季にすべての教員・生徒が安全な水を利用できる。</p> <p>B. コミュニティにおける浅井戸の設置及び修繕  (見込まれる裨益者数) 約 6,770 人 (全 4 区)  ※4 つの区で、計 20 基を新設し、計 11 基を修繕する。  第 1 期: 10 基設置: 3,920 人、11 基修繕: 750 人  第 3 期: 10 基設置: 2,100 人  (指標)・水質検査が飲料に適していると判断され、浅井戸周辺に住む 80%以上の住民が利用できる。</p> <p>(イ) 衛生環境の改善</p> <p>A. 学校におけるトイレの設置  (見込まれる裨益者数) 約 1,600 人+今後入学する生徒 (全 5 校)</p> <p>第 3 期: 10 棟 (5 校に各 2 棟建設): 約 1,600 人  (指標)・すべての教員・生徒がトイレを利用する。</p> <p>B. 手洗い場の設置  (見込まれる裨益者数) 約 1,600 人+今後入学する生徒 (全 5 校)</p> <p>※5 校で各 1 基設置する。  第 2 期: 5 校 (計 5 基): 約 1,600 人  (指標)・排泄後など教員・生徒の 80%以上が手洗いを行なう。</p> <p>C. 参加型保健及び衛生に関する教育、及び既習者コースの実施  (見込まれる裨益者数) 5,832 人 (全 4 区) ※6 校と 4 つの区で実施する。  第 1~2 期: 参加型保健及び衛生に関する教育: 1,695 人、  第 2~3 期: 既習者コース: 4,137 人  (指標)・参加したトレーナーが理解度を測るテストで 70%以上正答する。  ・トレーナーから訓練を受けたものが理解度を測るテストで 70%以上正答する。</p> <p>※裨益者数の詳細に関しては、別紙 5 を参照。</p>
----------------------------	--